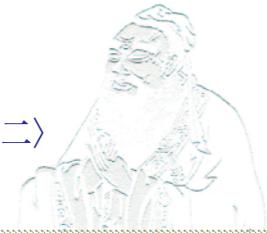


jǐ suǒ bú yù wù shī yú rén
己所不欲，勿施於人おのれ ほつ びん しけん ほどこ なか
己の欲せざる所は人に施す勿れ〈顔淵第十二〉うえだ あつ お
桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄

ある時、弟子の仲弓^{ちゆうきゆう}が孔子に「仁」について尋ねました。仲弓は姓を冉、名を雍^{よう}といます。仲弓は字^{あざな}です。孔門十哲の一人で、顔回^{びん しけん}や閔子騫と並んで德行に優れた人物として名を残しています。

孔子は彼のことを「雍也可使南面^{Yōng yě kě shǐ nán miàn}」(雍や南面せしむべし)〈雍也第六〉と評しています。南面とは君主を指します。つまり仲弓は一国を支配する君主たる資質を持っている、ということです。

こういう人物であることを見込んだ上で、孔子は次のように答えています。「出門如見大賓，使民如承大祭。己所不欲，勿施於人^{Chū mén rú jiàn dà bīn, shǐ mǐn rú chéng dà jì. Jǐ suǒ bú yù, wù shī yú rén}」(門を出でては大賓を見るが如く、民を使うには、大祭を承くるが如くす。己の欲せざる所は人に施す勿れ〈顔淵第十二〉。家を出て人に接するときには、大切な賓客をもてなすように礼を尽くし、人を使うに際しては祭礼^とを執り行うように慎重を期さなければならない。自分がして欲しくないことを人に強いてはならない。「仁」とはこういうものだということです。

ここには権力者の心得が説かれているとみてよいでしょう。権力を持つ者は往々にして人の立場を考えず、横柄に振舞いがちです。人に過酷な労働を課して、省みることをしません。今でもこういう現象は珍しくありませんが、当時はこれが当然と見られていました。こうした風潮を正すことを孔子は自らの使命と考え、その思いを優秀な弟子たちに託していたのです。

同じ質問を孔子は顔回からも受けています。この時孔子は「克己復礼为仁。一日克己复礼、天下归仁

焉^(Kè jǐ fù lǐ wéi rén. Yí rì kè jǐ fù lǐ, tiān xià guī rén yān)」(己に克ち礼を復むを仁と為す。一日己に克ち礼を復めば、天下は仁に帰す)〈顔淵第十二〉と答えています。

己に克つ、とは自己を抑制することです。「克己」という語は現代中国語としても日本語としても生きています。礼を復むとは、礼を実践することです。「礼」という語は今日では礼儀作法とかセレモニーの意味で使われますが、当時はもっと広く、すべての道德規範、社会規範という意味合いを持っていました。それは今日でいう法と道德を包括するものでした。後世のような成文法^{せいぶんほう}はまだ一般化してない時代のことです。したがって「礼」がなければ社会秩序は際限なく崩壊していきます。そこで己の欲望に屈することなく、この「礼」を守り実践していくのが「仁」の道で、権力を持つものがこれを実現すれば、天下の人民はおのずとこれに従うようになる、ということです。

顔回は貧乏のどん底にありましたが、孔子の教えを実現すべく、喜々として勉学に励んでいました。孔子は顔回のことを「回也其心三月不違仁，其餘則日月至焉而已矣^{Huí yě qí xīn sān yuè bù wéi rén, qí yú zé rì yuè zhì yān ér yǐ yǐ}」(回や其の心三月仁に違わず、其の余は則ち日月に至るのみ)〈雍也第六〉と言って褒めています。顔回は三か月も「仁」の心に違うことがなかった。他の連中は一日か、せいぜい一か月で挫けてしまうのに……。

しかし孔子の期待にもかかわらず、顔回は官途に就くことなく早世してしまいました。孔子は「噫、天予を喪ぼせり^{われ ほろ}」〈先進第十一〉と叫んで慟哭しました。

(わりい「中国語で読む漢詩の会」講師)